

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191200015
法人名	有限会社 ユーライフ
事業所名	グループホーム きらら
所在地	三養基郡みやき町原古賀7470番地3 (電話)0942-94-9222

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	独立行政法人国立東佐賀病院 ひでき歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>閑静な場所に立つ新築のホームで、近所にある宅老所とも交流が行われている。認知症介護に長年の経験を持つ管理者の強いリーダーシップの下、職員は活き活きと働き、開所時を除き離職者はいない。職員は入居者一人ひとりのペースや思い、希望に沿った支援をしている。散歩などはグループでの行動ではなく、希望に応じ、個別に支援している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題となった災害時の体制整備については、隣接の宅老所に入居者と共に訪問するなどし良好な関係を作り、災害時の相互協力につなげた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を全職員が理解し、数項目づつ、日数をかけて、全員で取り組みの事実を確認している。明らかとなった課題については改善に向け取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年度末や年度初めは事業運営報告や計画等の報告が行われ、防災や事故防止等の協力依頼、認知症や介護・看護、一般衛生知識等の話し合いが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置すると共に、相談苦情窓口の案内表示をし、また、全職員の顔写真を掲示している。家族来訪時には、気兼ねなく意見や苦情、要望を言ってもらおうよう必ず働きかけている。出された意見・要望等は小さなことでもその都度対応・改善している。家族会も出来ており意見等の提供を期待している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、町の夏祭りを見学してはいるが、区長や班長との交流はあるものの地域活動にはまだ参加したことは無い。隣接の宅老所とは交流があり、地区の人から畑を借りたり、散歩時には挨拶を交わす等連携に向けた取り組みを行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開所当時、全職員で理念を作っている。その後職員で話し合いをしながら改定し、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日申し送り時に理念を唱和し、月例会議やミーティングの時も必ず理念に触れ、確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、また町の夏祭りを見学したことはあるものの事業所と地域の人々が支え合うような双方向関係までには至っていない。	○	ともに暮らす地域住民の一員として入居者が地域とつながりながら暮らしていく為にも事業所が地域から孤立することなく受け入れられ、地域活動や人々との積極的な関わりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。改善課題については具体的に改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業等の報告、防災や事故防止等の協力依頼、認知症や介護・看護、一般衛生知識等の話し合いが行われ、意見等も出されている。出された意見等は検討しサービスに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	町の窓口にあるホームのパンフレットは置いてあるものの、町担当者に運営や現場の実情等を積極的に伝えられる関係までには至っていない。	○	町担当者が変わっても継続した協働関係が築かれ、運営の実態を共有できるよう、積極的な交流の機会づくりが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月便りを発行し、写真や日常の様子などを書いた文書と共に家族に送付している。特異事項などはその都度電話で報告をしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に意見箱を設置すると共に、相談苦情窓口の案内表示をしている。家族来訪時には、気兼ねなく要望など言ってもらえるよう働きかけており、意見要望等にはその都度対応している。家族会も出来ている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の離職はホーム開所時のみであり、以降の離職者は無く馴染みの職員で支援している。玄関に職員の顔写真を掲示するなどし、家族へもより馴染んでもらうよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間研修計画があり、外部研修やホーム内研修が行われている。また、段階に応じた個別の外部研修にも参加し、参加後には伝達研修も行っている。評価シートを活用した技術向上も図っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	事業所の研修会やグループホーム協議会の勉強会に出席し情報交換や交流を図っている。また他の事業所と職員の相互訪問を行うなど、交流を通じての質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	頻回に家庭訪問を行うと共に、入居前に本人や家族にホームを見学してもらうことから始め、体験入居や遊びに来てもらったり、ホームでの生活が安定するのを見て利用に移っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者が人生の先輩であることを共有しており、普段から入居者に教えてもらうことも多く、また、草取りや料理の下ごしらえ等一緒に作業している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で意識的に声をかけ、把握に努めている。また、言葉や表情、視線からその真意を推し測ったり、それとなく確認して対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴いた上で、関係者と意見交換や、アイデアを出し合いながら介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画見直しの要否についてモニタリングを行っている。状態変化があった時には、その都度医師との相談も踏まえ本人・家族と話し合い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況・要望に応じ、外出・外泊の支援、病院への送迎など柔軟に対応している。また、看護師による24時間緊急時の相談体制や日々の健康管理の徹底に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医への受診である。本人・家族から変更の要望があったときは、看護師が支援してか医師を紹介している。ホームと医師とは、看護師を中心に良好な関係が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合等の指針について説明し同意を得ている。関係者と話し合いながら、職員全員でケアに取り組む体制がある。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている。また、個人情報に関する記録方法も配慮が窺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが入居者は体調や状態、気分、また、個々の生活習慣に合わせた自分なりのペースで1日を過ごしており、職員はそれぞれに応じた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、配膳、片付けは入居者と職員が一緒になって行っている。又、同じ食事を職員も一緒にとっている。食事のメニューを決めるのは入居者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りや介助は要所要所で行い、一人ひとりがゆっくりと入浴が楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等を理解した上で、草取りや畑仕事、洗濯物干し・取り込み・たたみ、料理の下ごしらえ、食事の準備、掃除等一人ひとりの力を出してもらっているが、そのための場面作りやお礼の言葉を言うなど配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の外出行事(ピクニック、外食等)のほか、その日の希望により、近隣への散歩がよく行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中鍵をかけることの弊害をよく理解しており、玄関や居室に鍵はかけられていない。見守り中心のケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練を年に2回実施しており、其の内1回は夜間を想定した訓練である。隣接する宅老所や運営推進会議を通じて近隣地域に災害時の協力も要請している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日熱計表に記録し、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには職員手づくりの布製カレンダーが掛けられ、また、玄関や各所にきれいな花が飾られ、廊下には職員手づくりの季節の飾りが掛けられている。各空間は飾り立てすぎることなく静かな佇まいの、居心地の良さを感じさせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた整理タンスや椅子、日用品が持ち込まれ、写真や飾り物等も思い思いに飾られており、入居者の居心地のよさに配慮している。		